

【講演の概要】

《演 題》 『長寿企業にみる経営意識の傾向』

《講 演 者》 一般財団法人みやぎん経済研究所 主任研究員 杉 山 智 行 氏

《概 要》

宮崎県内にある創業 100 年超の企業、創業 30 年以上で直近期売上 5 億円以上の企業に対して、経営意識に関するアンケート調査を実施し分析したところ、以下のような傾向がみられた。

1. 企業理念

- 経営者は、企業活動を通して地域に貢献したいと意識。
 - ・回答した企業理念のキーワードの相関性と出現頻度からは、「地域」、「社会」、「貢献」を意識した回答が多い。

2. 経営意識

- 創業から変わらないものは「企業理念」や「ブランド」。
 - ・「販売エリア」や「顧客」、「仕入先」などは変わっており、長寿企業といえども色々なことで経営努力をしている。
- 「市場開発」や「技術・商品開発」に対して革新的である。
 - ・長寿企業では、伝統を維持しながらも革新的なことにも取り組んでいる。
- 強みは経営者のリーダーシップで、弱みは研究機関との連携・交流。
 - ・長寿企業は経営者のリーダーシップや顧客対応・サービス力の点で強みを発揮している一方で、大学や研究機関との連携・交流、異業種との交流に遅れがみられる。
- 持続的な経営を継続する上で従業員の育成は非常に重要、後継者の育成は今後の課題。
 - ・従業員の育成は、今まで長期間経営を存続してきた要因でもあり今後も重要。一方、後継者の育成が今後も持続的な経営を継続する上での課題。
- 異業種企業や大学等の研究機関との交流やまちづくりとの結びつきは弱い。



【杉山氏による講演】

3. イノベーションへの取組・考え方

- イノベーションを起こすためには環境が非常に大事。
 - ・会社の環境、すなわち会社の雰囲気、自由な発想を出させようとする会社の取組が非常に大事。
- イノベーションを起こすためには優秀な人材と成長性が必要。

- イノベーションには人を結びつける力がある。
 - ・イノベーションを実施し地域との結びつきが強い企業には、地域外の人材を引っ張ってくる力がある。
- イノベーションにより経営戦略が変化する。
 - ・イノベーションを実施している企業は、誘導戦（先手を打って弱者をおびき出す）や広域戦（広いマーケットで戦う）の経営戦略が強い傾向にある。
- イノベーションに必要なものは「カネ」ではない。
 - ・長寿企業は、従業員の確保、安定的な受注や顧客確保、中途採用による人材確保を必要としており、資金調達などの「カネ」は重視していない。
- イノベーションの有無で考え方が違う。
 - ・イノベーションを実施している企業では、アイデアや新しい製品やサービスの需要、すなわちマーケティングに注目している。

4. 人材育成

- イノベーションを実施している企業が人材育成で実施していることには、リーダーシップ教育が上位に位置する。
- 人材育成の課題としては、時間がない、ノウハウがない、社員が少ないなどが上位に位置する。
- イノベーションを実施している企業では、県内外教育の専門性が薄いや、スペシャリストよりゼネラリストの育成が必要といった回答が多い。

5. 県内の人材育成機関・団体

- 既存の人材育成機関・団体への満足度は高い。
- 人材育成支援に求めるものは、交流の場、教育内容についての専門性や体系的な要望、資金面での支援など内容が多様化。